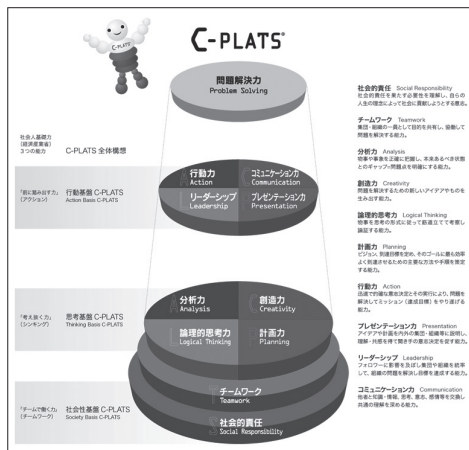


リベラルアーツ型教育を通じて 社会に貢献できる 価値ある人材を送り出す

図 C-PLATS®



大手前大学 キャリアサポート室
吉川正剛



1 リベラルアーツ型教育

大手前大学は、1966年に大手前女子大学として開学し、2000年に男女共学になりました。現在は、総合文化学部、メディア・芸術学部、現代社会学部の文科系3学部に加え、管理栄養士の養成を目的とした健康栄養学部が設置され、兵庫県西宮市の「さくら夙川キャンパス」、伊丹市の「いたみ稲野キャンパス」、大阪市の「大阪大手前キャンパス」の3キャンパスを開設しています。2019年4月には、日本で初めて「国際」の名を冠する看護学部である「国際看護学部」が開設されます。増加するインバウンドに対応して「日本にやってくる外国人の外来患者」に対応できる看護師の育成を目指していきます。

本学は、「リベラルアーツ型教育」を通じて、専門性と社会人基礎力を統合した、広く一般から認められる「就業力」を身につけるため、達成すべき項目と達成時期を設定した「グランドデザイン」

に基づき、卒業生が社会に貢献できる価値ある人材として受け入れられる教育を目指しています。ここでいう「社会に貢献できる価値ある人

材」とは、「問題解決能力を備え、困難な問題を解決して価値を生み出す人材」のことです。

そういう人材を養成するため、本学は独自に10の問題解決能力「C-PLATS®」を定義し、卒業時まで問題解決に必要なC-PLATS®能力を養成するとしています。C-PLATS®は、以下の10項目から成り立っています。

- (1) 社会性基盤能力
チームワーク、社会的責任能力
- (2) 思考基盤能力
創造力、計画力、論理的思考力、分析力
- (3) 行動基盤能力
コミュニケーション力、プレゼンテーション力、リーダーシップ、行動力

(1)～(3)は、それぞれ経済産業省が掲げる「社会人基礎力」の三つの能力「チームで働く力」「考え抜く力」「前に踏み出す力」に対応しています。

「C-PLATS®を養成する」とする本学のカリキュラム・ポリシーは、コア教育科目「キャリアデザインI・II・III」や、キャリアアップ科目である「職業選択演習」においても例外ではありません。授業の中で論理的思考力・分析力・プレゼンテーション等の力を磨きながら、学生は、自らの専門分野を選び、「自分で作る専門性」、キャリアや就職のことを考えていきます。

2 自前主義

筆者が所属しているさくら夙川キャンパスのキャリアサポート室では、総合文化学部、メディア・芸術学部、現代社会学部の3学部の就職支援・キャリア支援を担当しています。

特徴として挙げられるのは「自前主義」。非常勤のキャリア・カウンセラーを雇うのではなく、常勤の職員・スタッフが直接学生の就職活動支援にあたっています。就職支援担当の職員・スタッフは、キャリアコンサルタント等の有資格者が大半を占めており、学生は平日の開室時間、いつ来室しても専門家による助言やカウンセリングを受けることができます。

また、専門家が常勤の職員・スタッフとして配置されているからこそ、学生の実情に応じた就職ガイダンス・対策講座が柔軟に展開されます。今年度は新規に六つのガイダンスを開設。もちろん、書類添削講座（自己分析・添削講座）、グループ面接対策講座、グループディスカッション対策講座なども充実しています。3年生の秋から冬にかけては、毎日のように何らかのガイダンス・就活対策イベントが開講されています。

そうしたガイダンス・対策講座を経て、就活解禁時期には実際の企業における「合同説明会」を開催します。学生にとっては、これまでのガイダンス・対策講座の「総仕上げ」という位置づけになります。キャリアサポート室に登録して就職活動を予定している3年生の95%以上が参加し、企業の方から「この説明会が一番『アツイ』と言われるイベントになりました」。

大学の就職支援部門は「職業紹介機関」であるとともに、「厚生補導・学生支援」の部門でもあります。学生一人一人のキャリアの発達を見つめつつ、ある時は厳しく妥協なく、ある時はやさしく包み込むように、学生と並走していききたいと思います。